

令和6年度

赤羽根の里だより



茅ヶ崎市立赤羽根中学校 学校便り

令和7年3月10日(月)

校長 高橋 励

Dear Student(*~*) 3年生へ

ありったけの想いと熱量を

先週6日(木)に行われた卒業証書授与式の予行。参列保護者の席の確保のため、式当日は1,2年生は参列ができないため、全校生徒が体育館で顔を合わせるのはこの日が最後。見送る1,2年生にとっては“本当の卒業式”だったか



もしれません。写真は、予行を終えた後、対面で在校生から3年生に感謝の言葉を伝える時間を

切り取ったもの。これを見て、入学すぐに上級生と顔を合わせた対面式のようすがふと頭をかすめました。いつの間にか、頼られる大きな背中になったんだなあ、と改めて感じた一場面でした。予行で披露された学年合唱、ステキでした。でも、式当日の“最後の学年合唱”に込める想いや熱量は、予行を遙かに超えてくると期待しています。12日(水)の主演はひとりひとりのあなたです。有終の美、飾りましょう!

~保護者の皆さまへ~

“Well-beingの実現”

「ふれあい講座」に隠れ気味ですが、この時期の赤中は、それ以外にも「インクルーシブ講演会」、「食育講演会」、「薬物乱用防止教室」、「性感染症予防講座」、「くすりの学習講座」等、校外の専門講師による講座を開催しています。

学校教育で

“Well-beingの実現”という言葉が使われるようになって久しいですが、「心身ともに

健康で、持続的に幸福な状態」って、具体的にどんな状態でしょう?

4目次にインクルーシブ教育講演会の感想を掲載しています。「答えがある問いばかりではない」とはよく言ったもの。知らないことに気づき、問いを見つけ、考え続けることが“成長する”ということ。『正解』はそう歌っているように思えます。



~茅ヶ崎図書館からのご案内~

家庭での読書活動に関するアンケート

【0才~18才のお子さんがあるおうちの人へ】

図書館運営の参考にさせていただきたく、おうちでの読書のようすをおしえてください。3~5分程度で終わります。



かんたんアクセス

二次元コードから



令和7年3月31日(月)まで。みなさまのご協力をお願いいたします。

お問い合わせ：茅ヶ崎市立図書館 ☎0467-87-1001

読書のよこびをすべての子どもたちにとどける

Dear Student(*~*)

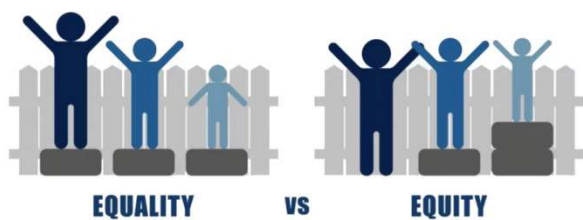
それぞれの問い、それぞれの気づき

～インクルーシブ講演会・生徒感想より～

講演3回目のベテラン3年生から今年デビューの1年生まで、それぞれの感想を紹介します。

1年生

- 性別、年齢などで事柄を語るのにはよくない。理解している人は多いと思います。ですが、ジェンダー表現はなくなりません。やはり、「ピンクは女」とか「サッカーは男」とか。決まっていなくて分かっていてもそういうイメージ、雰囲気は根付いたものになっているからです。減らせても、無くすのは相当難しいので、なんだかなーと思ってます。ですが、授業内で少し思ったのは、「男なら泣くな」とか「〇〇なのになにできない」とかは、定型文とかフレーズになっていることも感じます。要は、差別、行きすぎな区別でなく、違った意味を伝える内容のものはいいのかなと思いました。そこらへんの線引きも大切になってくるのではないのでしょうか。
- 「みんな違ってみんないい」の中に自分も含まれているということについて、正直考えたことはなかったの、ほ～～と思った。ついつい自分をそういう発想から排除しちゃうから“自分”ということのを忘れないでおきたいと思います。ランドセルも、制服も、昔より自由度高くなってるけど、やっぱりまだ偏見とかって社会に残っていると思うから、そういう部分に目を向けていきたいと思います。



【平等vs公平】

2年生

- 様々な人がたくさんいる学校という場所ではたくさんの個性があることがわかった。インクルーシブな学校はとてよ～と思うけれど、平等と公平についてずっと考えながら生活をするのはとても大変そうに感じた。人の気持ちを考えて行動することは大切だけど、察するだけじゃなくて、みんなが自分の意見を堂々とと言えるような雰囲気にしていけるように人の個性を笑わないということも意識したい。
- 今まで自分は周りの子と少し違う所があって変わってるとかとも言われたことがあるから気にしていたけれど、今回の講演を聞いて周りとは私と違うことが普通

3年生

- で周りと違うところはその人の個性だということを知って私は私のでいいんだと思えました。また私自身、心のどこかで誰かのことをかわっているなど思っていることもあったと思うので、これから学校や社会で過ごしていく時に1人1人違う所があることを受け入れて誰もが過ごしやすい空間を作っていきたいと思いました。
 - 全員を排除しないっていうのはできつつあることだと思いましたが、それと同時に誰か1人残らない世の中になるのは何年後になってしまうのだろう……と思ってしまう。だからといって何もしないとすると少しも前に進むことはできないし、1人が行動しても考えてしまう人もいなくはないと自分は考えているので難しい問題だと感じました。私は今後今回行っていただいた講演を頭に入れて自分に何ができるかを改めて考えていきたいと思いました。
 - すべての人を受け入れたいと思うけれど、どうしても自分と相容れることが出来ない人とはどう関われば良いのだろう、とグループで話し合った時に思いました。話題を共有しましたが、無視、そもそも関わらない、どうしようもない……などが拳がり、結局インクルーシブな解決策は見つかりませんでした。話し合いができない人をどのように知れば良いのでしょうか。
 - 今、社会を変えていけるのは自分自身なんだなと思った。若いうちに行動した方がいいのかなど考えた。自分たちが40歳くらいになった時どうい社会になっているのか気になった。
 - 今回教わった内容は、ずっと考えていかなければいけないことだと思いました。自分も知らず知らずのうちに誰かを悲しませているかもしれない、ということ意識して、みんなが心の底から笑えるような、そんな社会になることを不可能だと思わず、目標にがんばっていかうと思います。ありがとうございました。
 - 自分と違うからって批判したり、仲間外れにしないで当たり前なことだけど、簡単なことじゃないよなって思い、心がけてみたら人間性がある人になれるんじゃないかなと思いました。あと、まず否定から入る人苦手だなと思っていて、そういう言動もインクルーシブな考え方に含まれると知ってなるほど!と思えました。面白かったし、楽しかったです!
- *****
 インクルーシブな世の中って、実現するのは難しそう。だから、まずは、自分の身近なことから、少しずつ考えていきませんか。ちなみにわたしは今『みんな違ってみんないい』のか?』という本を読んでいます。
 『正解』は、自分(あなた・わたし)がこれから見つけていくもの。お互いしっかり考えてみませんか。